

平成	29	年度	事業者番号	0215	事業所番号	021501
----	----	----	-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	城西大学 坂戸キャンパス		
事業所所在地	市区町村	坂戸市	
	字・地番	けやき台1番1号	
産業分類名(中分類)	学校教育		
分類番号(中分類)	81		
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	学校教育・研究 8450人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間		27	年度	~	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	第2計画期間(H27~H31年)の二酸化炭素基準排出量は 7227 t-CO ₂ となりました。この基準値に対し5年間の年平均削減率目標を(埼玉県環境部設定目標削減率の)15%以上としました。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)	30,714	t-CO ₂			
	削減目標量 (計画期間合計)	5,421	t-CO ₂	事業所区分	第1区分-(1)	

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間		32	年度	~	36	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	3,035	3,211			

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算(t-CO₂)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂		6,026	6,379			
その他 ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		6,026	6,379			

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO₂)

CO₂換算(t-CO₂/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位				0.0549	0.0582			
活動規模の指標	○	床面積	m ²	109,670	109,662			

日本工業規格A列4番

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,227	t-CO ₂ /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

(2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

(5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計	
基準 排 出 量 等	基準排出量(A)	7,227	7,227	7,227	7,227	7,227	36,135	
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							30,714
	排出削減目標量 (D = Σ (A×B))							5,421
実績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	6,026	6,379				12,405	
	排出削減量 (F = A - E)	1,201	848				2,049	
特例	高効率設備の 算定量(※)							

※ 算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

 (6) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

H28年度、20号館及び21号館の増設に伴い、試運転に多くのエネルギーを使用したため、H27年度に比べてCO₂排出量が増加した。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量 (t) (一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	14号館アリーナ水銀灯及びナトリウム灯をLED化。実施済み	H28年度	36
2	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	11号館蛍光灯をLED化。計画延期	H29年度	
3	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	10号館・生命センター受変電設備の変圧器容量削減・安全対策による省エネ。計画延期	H29年度	
4	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	14号館受変電設備の変圧器容量削減・安全対策による省エネ。計画延期	H29年度	
5	160200	昇降機、建物	16_建物の省エネルギー	2.4.10号館入口の自動ドア化による連続開放を防止、空調省エネを図る。実施済み	H28年度	
6	150100	受変電設備、照明設備、電気設備	15_受変電設備の管理	11号館受変電設備の変圧器容量削減・安全対策による省エネ。	H29年度	
7	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	蛍光器具にて安定器交換が必要な物はLED照明 (ダウンライト、20W*270/27W*137/40W314相当) に交換実施	H28年度	10
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

省エネ啓蒙活動による省エネが実行された。
アリーナ照明を水銀灯(700W*48本、400W*96本)からLED140W*144本に更新することで節電が実施できた。
蛍光器具にて安定器交換が必要な物はLED照明(20W/27W/40W相当)に交換実施。